

# 平成30年度政府予算案について

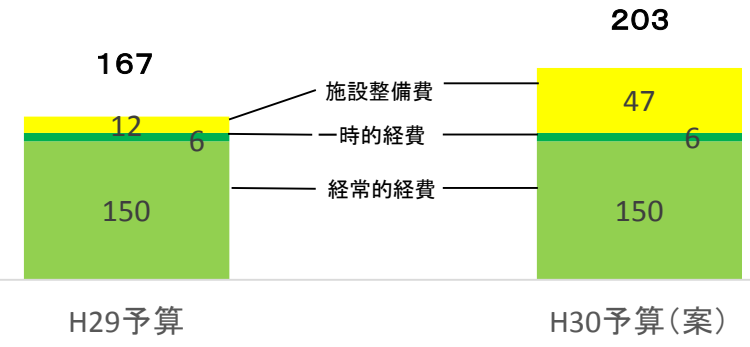
# 平成30年度OIST関係予算(案)

予算額:203.1億円  
(対前年度+35.8億円)

- ・研究費等を含む**運営費**は、所要額を確保(156.4億円)
- ・**施設整備費**は、H27補正で初年度分を予算措置した第4研究棟の建設費(最終年)を満額確保(39.8億円)

## 平成30年度予算(案)

	30年度予算(案)	29年度予算
運営費	156.4億円	155.4億円
施設整備費	46.7億円	11.9億円
計	203.1億円	167.3億円



## 運営費

- 経常的経費…学園の運営に必要な経費
  - ・人件費:61.9億円
  - ・機器購入費:15.8億円
  - ・運営費:72.2億円
- 一時的経費…イノベーション・エコシステム形成のための上乗せ経費
  - ・イノベーション・エコシステム形成に向けた関連研究:3.9億円
  - ・特許の実証実験プログラム強化に向けた取組等:2.5億円

## 施設整備費



- 第4研究棟整備費(39.8億円)
- 第5研究棟基本設計・基幹環境整備(1.9億円)
- インキュベーター施設(1.6億円)
- 住宅整備(1.3億円)
- 基幹・環境整備(2.2億円)

# 沖縄科学技術大学院大学学園補助金における経常的経費

H29 : 149.7億円  
H30(案) : 149.9億円

沖縄科学技術大学院大学における国際的に卓越した教育研究の実施に必要な経費など、学園の運営に必要な経費

平成30年度予算(案)においては、加えて、教員の増員に伴う経費などを要求

## 概要

○人件費：61.9億円（4.4億円増）・・・教員、研究者、事務職員等の人件費

【主な項目】

- ・新たな教員の増員（5名）：約34百万円
- ・新規ユニット（5ユニット）に配属される研究員の増員（20名）：約64百万円
- ・事務職員等の増員（20名）：約49百万円

○機器購入費：15.8億円（7.3億円減）・・・教育研究の実施に必要な研究機器等の購入費等

【主な項目】

- ・研究用ITネットワーク基盤整備費：約 454百万円
- ・共有研究機器の購入：約 253百万円

○運営費：72.2億円（3.2億円増）・・・研究ユニット運営に必要な経費や光熱水道費など研究を実施するために必要なその他の経費

【主な項目】

- ・新規研究ユニットの運営費（5ユニット分）：約86百万円

【参考】教員(PI) 1人あたりの研究費(経常的経費)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30(案)
経常的経費(億円) (A)	84.8	84.3	98.8	103.4	121.7	142.5	149.7	149.9
教員(PI)数(予算上)(人) (B)	34.5	51	51	51	55	60	65	70
A/B(億円)	2.46	1.65	1.94	※ 2.03	2.21	2.38	2.30	2.14

※ H26は、共有研究機器購入費を要望枠(経常的経費とは別枠)で計上した。これを仮に経常的経費に算入すると「2.32」億円となる。

基礎的研究に特に上乘せして実施する出口志向の研究など、産学の相互連携システム形成の推進を図るため、OISTの最先端基礎研究をベースとした様々なフェーズにおける活動を強化

## 概要

### 産学の相互連携システム形成の推進に向けた関連研究の実施

様々な社会問題に対し、革新的なテクノロジーで解決に導く目的で行われる研究を支援する、「イノベーティブ・テクノロジー研究プログラム(ITR)」を実施する。本プログラムは、基礎研究と社会問題への対策とを結びつける重要な役割を担う。本プログラムの実施から生まれた知財を持ったプロジェクトはその後、実証実験研究プログラム(POC)に進み、特許の市場価値を高める。このようなイノベーションを創出するエコシステムを確立し、より着実な歩みで産学連携を実施する。

### 特許の実証実験プログラム強化等産業応用に向けた取組

#### 〇POC(Proof of Concept)実証実験の実施

- ・ 低価格太陽電池の製作
- ・ ナノワイヤを用いた高性能ガスセンサー
- ・ アルツハイマー病治療のためのペプチド
- ・ ナノワイヤを用いたバイオセンサー
- ・ 新しい磁気結合を用いた微小流体ポンプ
- ・ 医療ビッグデータのためのプライバシー情報管理
- ・ 廃水処理のための微生物燃料電池
- ・ 高生体適合性セルロースの生体外合成
- ・ レーザー刺激応用したナノ粒子薬物送達システム
- ・ バイオエタノール生産のための微生物燃料電池
- ・ ペロブスカイト太陽電池の製法と機器の開発
- ・ 局在表面プラズモン共鳴を用いた生体センサー等

※POC: 概念実証

出願した特許の内容が産業応用可能かどうか、実証データを追加することで、技術移転の可能性を最大化させる実証実験。

#### 〇市場調査、起業家トレーニング 等

### 産学の相互連携システム形成推進に資する国際的なワークショップの開催

〇国際的なワークショップを開催し、OISTの研究成果を国際的に広く情報発信することにより、OISTの研究成果を活用した共同研究や新技術の創出が加速。

沖縄科学技術大学院大学における必要な施設整備に要する経費  
平成30年予算(案)においては、第4研究棟、インキュベーション施設の建設費等を計上

## 概要

- 第4研究棟整備費※(39.8億円) ※4年国債(H27-30)の最終年(総額113.2億円)  
大学の規模拡充に向けたキャンパス整備に係る経費として、研究棟(第4研究棟)の建設を推進
- 第5研究棟の整備(1.9億円)  
第5研究棟の基本設計(0.4億)や土地造成※(1.5億) ※2年国債(H30-31)の1年目(総額3.1億)
- インキュベーション施設整備費(1.6億円)  
OISTで生まれた研究成果を、民間企業と共同研究するための施設の整備
- 住宅整備(1.3億円)  
学生や教員等が住むための宿舎を整備するため、土地造成やライフラインの整備
- 基幹・環境整備(2.2億円)  
キャンパス構内の法面補強、緑化・歩道等の整備

